

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://jsohkink.umin.jp>

第53回近畿産業衛生学会

主催	日本産業衛生学会 近畿地方会
後援	京都府医師会 京都産業保健推進センター
学会長	中山健夫(京都大学大学院)
日時	平成25年11月2日(土) 10時開始(9時半開場)
会場	京都大学医学部構内 芝蘭会館、G棟 (京都府京都市左京区吉田近衛町)
一般演題	10:00~12:00 第1会場(芝蘭会館 稲盛ホール) 第2会場(芝蘭会館 山内ホール) 第3会場(G棟2階 セミナー室A)
幹事会	12:00~12:45 G棟3階 演習室
代議員会	12:45~13:15 第3会場(G棟2階 セミナー室A)
表彰式	13:30~13:45 第1会場(芝蘭会館 稲盛ホール)
基調講演	13:50~14:50 第1会場(芝蘭会館 稲盛ホール) [有病者の就業支援] 演者 立石清一郎(産業医科大学産業医実務研修センター)
シンポジウム	15:00~17:00 第1会場(芝蘭会館 稲盛ホール) [病気を持ち、働く人々の支援に向けて] 座長 古木勝也(至誠会古木内科医院) 村田理絵(京都工場保健会) シンポジスト 堀松高博 (京都大学病院臨床研究総合センター) 八田 告 (八田内科医院、近江八幡市立総合医療センター腎臓センター) 細越寛樹(畿央大学教育学部現代教育学科) 川畑真理(大日本スクリーン製造)
懇親会	17:30~19:00 第2会場(芝蘭会館 山内ホール)
専用ページ開設	http://jsohkink.umin.jp/jsohkink-53/

学会開催のご挨拶

中山 健夫

京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学

この度、第53回近畿産業衛生学会を京都大学で担当させて頂くことになりました。本学会は産業衛生関係者の学術活動の発表と研鑽を目的に、近畿2府4県の持ち回りで開催され、毎年活発な交流の場が提供されています。本学会の母体である日本産業衛生学会近畿地方会の誕生は、日本産業衛生協会の京阪地方会として発足した昭和11年(1936年)に遡ります。その後、一貫して「働く人間の健康」を守り、「人間として働

くこと」を問い続けてきた、本学会の立脚点、目指すところに揺るぎはありません。

本年度は、社会的な要請を積極的に反映し、テーマに「病気を持ち、働く人々の支援に向けて」を掲げ、気鋭の研究者・実践家による密度の濃い特別講演・シンポジウムを企画しております。

関心をお持ちの多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

第53回近畿産業衛生学会プログラム

一般演題 10:00~12:00

第1会場<芝蘭会館 稲盛ホール>

10:00~10:36 第1セッション

座長 櫻木園子(京都工場保健会)

(101) 大学附属病院新規採用者における結核検査QFTの導入と事後措置について

○谷口有紀、鴨井博(大阪市立大学大学院医学研究科産業医学)

(102) 腹囲の変化が検査値に与える影響

○松本久美子、伊藤雅子、西村嘉高、小西朱美、寺田哲也、磯島康史、木村隆(近畿健康管理センター)

(103) 健診直前の保健指導の効果

○梶岡恵子、朝枝哲也、松若由子、上原亮子、村田理絵、奥田友子、宮里雅志、森口次郎、池田正之(京都工場保健会壬生センター)

10:36~11:12 第2セッション

座長 前山美佐子(パナソニック株式会社 デバイス社)

(104) 健康診断における比較読影・遠隔画像診断の取り組み

○寺田哲也、山道直樹、恵千恵子、谷口俊樹、谷川原一也、磯島康史、阪上皖庸、西村明芳、木村隆(近畿健康管理センター)

(105) 脂質異常者における危険因子保有状況の検討

○藤吉奈央子^{1) 2)}、原共乃¹⁾、三浦克之²⁾

¹⁾ 近畿労働金庫

²⁾ 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

(106) 定期健康診断時におけるメンタルヘルスチェックと自覚症状、喫煙、飲酒に関する検討

○小財智子、松本千寿、川畑真理、金井真希子(大日本スクリーン製造)

11:12~12:00 第3セッション

座長 三木秀樹(栄仁会 宇治おうばく病院)

(107) 調査票を活用した総合的なメンタルヘルス対策の効果

○山根英之、森口次郎、吉岡千晶、水本正志、池田正之(京都工場保健会)

(108) ストレスチェックで抽出された高ストレス者のフォロー結果について

○岩根幹能、東文香、山名愛、岡田夏季、谷本早苗、麦谷耕一、吉田岳一、渡邊実香、榎本祥太郎、高野登、中村信男(和歌山健康センター)

(109) 困難に立ち向かう力(レジリエンス)が高い労働者の特徴と心理的ストレス反応との関連:1年間の前向きコホート研究

○津野香奈美¹⁾、井上彰臣²⁾、川上憲人³⁾

¹⁾ 和歌山県立医科大学医学部衛生学教室

²⁾ 産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学研究室

³⁾ 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

(110) 精神疾患を持ち、働く人の支援における工夫—精神科医の産業医活動

○天笠崇(京都大学大学院医学研究科健康情報学分野)

第2会場<芝蘭会館 山内ホール>

10:00~10:36 第1セッション

座長 山田達治(京セラ本社 環境本部)

(201) 民間保育園保育士の筋骨格系障害

○北原照代、埜田和史、辻村裕次(滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門)

(202) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護に従事する介護職者の健康状態と支援方法について

○川村小千代、山田和子、森岡郁晴(和歌山医大大学院保健看護学研究科)

(203) 高齢者施設の常勤介護職員における離職とその関連要因の検討

○大浦智子^{1) 2)}、石崎達郎³⁾、中山健夫¹⁾

¹⁾ 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野

²⁾ 星城大学リハビリテーション学部

³⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所

10:36~11:12 第2セッション

座長 澤田典子(京都工場保健会)

(204) 産業看護職を対象とした現任教育に関する調査～統計に関する意識～

○久井志保(兵庫大学健康科学部看護学科)

(205) 潰瘍性大腸炎患者における就業上の困難の実態と支援方法について

○那須文実、山田和子、森岡郁晴（和歌山医大大学院保健看護学研究科）

(206) 体重減少の要因分析

○松若由子、森口次郎、宮里雅志、村田理絵、梶岡恵子、池田正之（京都工場保健会壬生センター）

11:12~12:00 第3セッション

座長 森山和郎（パナソニック株式会社 デバイス社）

(207) 健康保険組合のレセプトと健診データ突合による生活習慣病未受診実態－健診後高値者の放置割合、受診継続割合及び新患の処方実態と今後の対策アプローチ

○木村真也¹⁾、中山健夫²⁾

¹⁾ 日本医療データセンター

²⁾ 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野

(208) 高血糖未治療者の特性：健診とレセプト情報を用いた疫学的検討

○辻村友香¹⁾、高橋由光¹⁾、石崎達郎²⁾、栗山明¹⁾、宮崎貴久子¹⁾、佐藤敏彦、池田俊也、木村真也³⁾、中山健夫¹⁾

¹⁾ 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野

²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所

³⁾ 日本医療データセンター

(209) 精密検査未受診者の意識調査

○上野香菜、澤田典子、佐本利美、濱岡才子、田中勝、高梨芳彰、池田正之、武田和夫（京都工場保健会）

(210) 特定保健指導における5年間の効果の検討

○上原亮子、宮里雅志、村田理絵、梶岡恵子、畑中知子、奥田友子、森口次郎、池田正之（京都工場保健会壬生センター）

第3会場<G棟2階 セミナー室A>

10:00~10:36 第1セッション

座長 原田浩二（京都大学大学院医学研究科）

(301) 福島第1原発20km圏内の森林天蓋による放射性セシウム吸着量の推定

○新添多聞¹⁾、原田浩二²⁾、藤井由希子²⁾、足立歩²⁾、人見敏明²⁾、石川裕彦¹⁾、小泉昭夫²⁾

¹⁾ 京都大学防災研究所気象・水象災害

²⁾ 京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野

(302) 福島第1原子力発電所50km圏内避難区域に隣接する住民の放射線被ばく評価

○原田浩二¹⁾、新添多聞¹⁾、今中美栄²⁾、尼子克己³⁾、桑守豊美⁴⁾、藤井由希子¹⁾、要石真利¹⁾、小泉昭夫¹⁾

¹⁾ 京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野

²⁾ 京都光華女子大学

³⁾ 神戸学院大学

⁴⁾ 仁愛大学

(303) 和歌山県における災害に対する企業の事業継続能力について

○森岡郁晴^{1) 2)}、宮下和久^{1) 3)}、竹下達也^{1) 3)}、生田善太郎^{1) 4)}、寺下浩彰¹⁾

¹⁾ 和歌山産業保健推進連絡事務所

²⁾ 和歌山医大保健看護

³⁾ 和歌山医大医

⁴⁾ 新日鉄住金和歌山製鉄所

10:36~11:12 第2セッション

座長 伊木雅之（近畿大学医学部公衆衛生学）

(304) (独) 労働者健康福祉機構 入院患者病職歴データベースにおける印刷業の胆管がん症例

○久保田昌詞（大阪労災病院勤労者予防医療センター）

(305) 化学物質取扱い労働者の複合曝露による発癌リスク

○富岡公子、大林賢史、佐伯圭吾、岡本希、車谷典男（奈良県立医科大学地域健康医学教室）

(306) 作業環境測定実施作業場における有機溶剤の使用状況

○花田貴彰、児島賢、財津愛、岡本浩、鶴飼博彦、長澤康浩、高田志郎、川上卓也、大橋史子、池田正之（京都工場保健会）

11:12~11:48 第3セッション

座長 中川克（立命館大学保健センター）

(307) 振動工具管理責任者用 簡易型・手腕周波数補正振動加速度実効値測定器の開発

○前忠良¹⁾、吉田成宣¹⁾、清水和也²⁾、宮下和久³⁾、前田節雄⁴⁾

¹⁾ 大興

²⁾ DEED

³⁾ 和歌山医大

⁴⁾ 近畿大学

(308) コールセンターでの騒音暴露実態調査の試み
—ノーマルヘッドセットと骨伝導ヘッドセット使用による聴力の一時的閾値移動—

○前田節雄¹⁾、渡久山朝裕²⁾、小林甲児³⁾、中谷任徳⁴⁾、中谷明子⁴⁾

¹⁾ 近畿大学総合社会学部

²⁾ 沖縄県立看護大学

³⁾ 豊田通商

⁴⁾ ゴールデンダンス

(309) スリランカ農民の慢性腎臓病

○人見敏明¹⁾、Shanika Nanayakkara¹⁾、STMLD Senevirathna¹⁾、原田浩二¹⁾、小林果¹⁾、宮高透喜²⁾、姫野誠一郎²⁾、小泉昭夫¹⁾

¹⁾ 京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野

²⁾ 徳島文理大学薬学部衛生化学講座

幹事会 G棟3階 演習室 12:00~12:45

代議員会 G棟2階 セミナー室A 12:45~13:15

表彰式 芝蘭会館 稲盛ホール 13:30~13:45

近畿産業衛生学会優秀演題賞

第53回近畿産業衛生学会若手奨励賞

基調講演 芝蘭会館 稲盛ホール 13:50~14:50

「有病者の就業支援」

演者 立石清一郎

(産業医科大学産業医実務研修センター)

シンポジウム 芝蘭会館 稲盛ホール 15:00~17:00

「病気をもち、働く人々の支援に向けて」

座長 古木勝也 (至誠会古木内科医院)

村田理絵 (京都工場保健会)

シンポジスト

堀松高博 (京都大学病院臨床研究総合センター)

八田 告 (八田内科医院、近江八幡市立

総合医療センター腎臓センター)

細越寛樹 (畿央大学教育学部現代教育学科)

川畑真理 (大日本スクリーン製造)

懇親会 芝蘭会館 山内ホール 17:30~19:00



第53回近畿産業衛生学会開催要項

1. 参加申込

可能な限り事前申込をお願い致します（ホームページをご確認ください）。定員を大幅に超えた場合、当日申込の方にはご入場をご遠慮いただく場合がございます。

2. 会場へのアクセス

会場 京都大学医学部芝蘭会館他



交通案内

交通機関の詳細は、下記をご覧ください。

芝蘭会館交通のご案内:

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/siran/kotsu.htm>

※車でのご来場はご遠慮ください。

※交通事情により、バス、タクシーが遅延する可能性があります。余裕を持ってお越しくださいませ。

主要鉄道駅	交通機関	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	所要時間	下車バス停
JR/近鉄京都駅	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約35分	京大正門前
				「東山通 高野・岩倉」行		
阪急河原町駅	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	約25分	京大正門前
				「東山通 高野・岩倉」行		
地下鉄烏丸線今出川駅	市バス	烏丸今出川	201系統	「百万遍 祇園」行	約15分	京大正門前
				「祇園・みづ」行		
京阪出町柳駅	市バス	出町柳駅前	201系統	「祇園・みづ」行	約10分	京大正門前
				徒歩		
					約20分	
					約10分	
					約5分	
					約15分	

3. 受付・参加費

受付は、芝蘭会館1Fロビーで、当日9時半から行います。

参加費は、日本産業衛生学会の学会員1,000円、非会員2,000円、大学院生・学生1,000円です。

4. 一般演題の演者の方へ

1) 1演題につき11分（口演7分+質疑応答4分）です。会場内に次演者席を用意しています。

2) 発表用ファイル（Windows版 Power Point 2003/2007/2010/2013）は、当日各発表会場前のPC受付で受け付けます。発表セッションの30分前までにお越しください。

5. 幹事会および代議員会

幹事会は12時00分からG棟3F演習室で、代議員会は12時45分から第3会場（G棟2階 セミナー室A）で行ないます。

6. 表彰式

一般演題の中から優秀な研究発表に近畿産業衛生学会優秀演題賞が原則として1題が選考され、表彰されます。

さらに、若手研究者を対象に第53回近畿産業衛生学会若手奨励賞が選考され、併せて表彰されます。

7. 懇親会

17時30分より芝蘭会館 山内ホールにて行います（参加費4,000円）。事前申込をお願いします（ホームページをご確認ください）。

8. 日本医師会認定産業医の方へ

日本医師会認定産業医 生涯研修（専門：3単位）認定単位をご希望の方は当日受付してください。受講票をお渡しします。

9. 日本産業衛生学会認定産業看護職の方へ

日本産業衛生学会産業看護職継続教育（実力アップコース）の単位取得可能です。

基調講演 13:50~14:50 II-5-(2) 1単位

シンポジウム 15:00~17:00 II-5-(3) 1単位

ご希望の方は当日受付してください。

10. 学会事務局

第53回近畿産業衛生学会事務局

〒605-8501 京都市左京区吉田近衛町

京都大学大学院医学研究科

社会健康医学系専攻 健康情報学分野内

TEL: 075-753-9477

FAX: 075-753-9478

Eメール: 53ksanei@hi.med.kyoto-u.ac.jp

専用ページ <http://jsohkink.umin.jp/jsohkink-53>

第14回近畿臨床産業医学フォーラム

大阪ガス株式会社
人事部大阪ガスグループ
健康開発センター

岡田 邦夫



平成25年9月4日(水)、ホテルグランピア大阪にて「熱帯・亜熱帯地域への渡航者と感染症」をテーマに第14回近畿臨床産業医学フォーラムが開催されました。悪天候にもかかわらず67名の方に参加していただきました。

基調講演は「海外渡航と感染症~その対策と予防~」と題して関西医科大学公衆衛生学講座主任教授 西山利正先生から、マラリアを媒介する蚊の対策として蚊取り線香などの防虫剤の効能、その他の感染症予防対策、トラベラーズワクチン接種、予防内服等多岐にわたる分野の知見をわかりやすくかつ具体的にお話していただきました。

パネルディスカッションでは、パナソニック健康管理センター海外医療対策室室長辰巳嘉英先生から、「海外渡航者の健康管理」と題し、企業内で実施している海外渡航者に対する健康管理の概要を、また、関西医科大学付属滝井病院海外渡航者医療センター副センター長の三島伸介先生から、「海外渡航者に対して考慮すべき予防接種とそのスケジュール」と題し、センターの活動についてお話していただきました。ディスカッションでは、我が国のワクチンの充足状況、低ワクチン接種率等の問題点が話し合われました。マラリアについては、帰国後発症例もあり、疲労蓄積や睡眠不足など免疫が低下した状況での発症事例の紹介がありました。今後は、多様化する海外での感染症対策が難しいため、トラベルクリニックと緊密な連携をとって海外渡航者の健康管理をより充実させることが必要であることが感じられました。フロアからも活発な質問があり、関心の高さが窺われました。

共催:日本産業衛生学会近畿地方会、近畿臨床産業医学フォーラム、グラクソ・スミスクライン株式会社

第18回近畿産業医部会研修会を終えて

実行委員長

上原 新一郎



平成25年9月7日『産業保健におけるエビデンスに基づくアプローチ』をメインテーマに研修会を開催しました(参加者156名)。

基調講演は、大阪市立大学の林先生からテーマ『産業保健における疫学の基礎』で、「疫学の知識は医療現場において受診者に対応する上で極めて重要なスキ

ルである」という切り口で「知っておくべき研究方法」についてお話し頂きました。シンポジウムは、テーマ『産業保健における健康データの活用~日常業務での取組み~』で、篠原将貴先生(パナソニックAIS社西門真健康管理室)から、「日常の健診データからエビデンス作成まで」で健診データを用いたモデルの検証について、蓮尾淑江先生(NTT西日本関西健康管理センター)から、「日常の健康管理へのエビデンスの活用」で健診データを活用した社内喫煙対策についてお話し頂きました。最後に、伊藤ゆり先生(大阪府立成人病センターがん予防情報センター)から、「がん統計・がん登録事業のお話し頂きました。事務局から先生方に多くの話題提供をお願いしたため、全体討議を行う時間が不足しましたが、フロアとの活発な質疑応答を行いました。非常に盛りだくさんの内容でしたので、あらためて産業保健における疫学の重要性が認識されたものと思います。

最後に、研修会の準備・運営にご支援・ご協力いただいた関係者の皆様に深謝申し上げます。

「産業看護部会定例研修会報告」
『統計の基礎』に参加して

ダイハツ工業 株式会社
林 千世



『統計』は、産業看護職にとって欠かせないリテラシーであることは知られていますが、自在に使えるようになるのは憧れでした。

今回の研修参加で、少しハードルの高い統計が使えるかもしれない、そういう期待がありました。

普段の仕事では集計をしています、奮発して“検定”したとき、そこに出てくる結果に“有意差がある”と確信が持てないことが意外に多くあります。

確信が持てないため活用できないままに終わり、非効率な作業の繰り返しで、ひとつの解決すべき課題となっていました。

講師の久井先生は、統計でご苦労された経緯があるそうの中で私の中で一気に共感をおぼえ、リラックスして研修に参加できた気がします。

先生ご自身「人や本などの出会いの中で、統計がひとつひとつ身になって行った。」という体験を聞くと、経験を積みば私でもできる?という期待ができました。

基本中の基本「統計は道具で、扱い方をマスターする必要がある。」という出発点から、統計の基本用語の解説、さらには実際にフローチャートを使い、何の検定を用いるのが良いかの手順確認、最後は事例を用いた演習を行いました。

私の中でとても馴染み深いものになったのが、「帰無仮説」です。データの間に、関係ある可能性が予測されるのに、あえて関係がないと仮定して検証していく…。

できたつもりになっていた学生時代を昨日のこのように思い出し、懐かしさとほろ苦さでとても楽しい研修となりました。

受賞を機会に多くの方々に感謝、感謝

大阪樟蔭女子大学大学院
人間科学研究科
精神科医

夏目 誠



「人生いろいろ」—意外な航路

高倉千代子さんの名曲「人生いろいろ」ではないでしょうが、様々な歩みがあります。私の場合は意外性が多かった。志したのは始まったばかりの「心療内科」。最初の恩師は故大海作夫奈良医科大学助教授。「神経筋肉系心身症」の専門家で精神科医でした。先生たちと臨床研究を行っているうちに、いつのまにか精神科医になってしまった。わからないものですね。

思春期から職場へ、そしてハマった!

30歳の時に大阪府立公衆衛生研究所研究所報精神衛生部に勤務。そこで出会った恩師が藤井久和博士です。先生に勧められ思春期精神医学(思春期危機症)から「職場のメンタルヘルス」に転換。ある意味、受け身でした。やり始めたら、はまりました。特に「適応障がい」に熱中。ライフワークになったのです。今でも知人から「思春期なのに、なぜ職場をしているのですか」と聞かれます。人生って面白いものですね。

「人生のスパイス」に魅了され

「ストレス評価法」が私の次のテーマでした。「ストレスは人生のスパイス」と言うセリエ博士の言葉に魅了されたから。程度をストレス点数で明示する点を中心に展開しています。ストレスはブラックボックスが多く大変ですが…。

緑十字賞受賞—多くの方々に感謝を

受賞して嬉しく思うとともに、恩師を初めとして多くの方々に支えられたことに感謝しています。

緑十字賞を受賞して

大阪市立大学大学院
医学研究科神経精神医学

井上 幸紀



平成24年10月に富山県で開催された全国産業安全衛生大会において、中央労働災害防止協会より緑十字賞の表彰を授かりました。私は医学部卒業後、精神科臨床医となり、主な研究テーマを「摂食障害の動物モデル研究」として大学院にも進み留学もしました。どこから産業安全衛生に関係するのか、と思われるかもしれませんが。摂食障害は一種の依存症で(食べだしたら止まらない、など)、アルコールを含めた物質乱用な

どと脳内神経伝達物質動態や行動心理に共通項が見られます。その先で、ワーカーホリック(労働依存)や燃尽き症候群、職場のうつ病に結びつきました。実際、職場のうつ病、うつ状態は遺伝素因に強く規定されるのではなく、それまでの人生で培った価値観や行動パターン、特定の行動に対する報酬感覚などが深く関与します。このような考え方に基づいて、労働者の治療のみならず、産業現場でもメンタルヘルスに関する様々な活動(産業医活動、教育講演活動、調査活動など)を継続的に行ってきました。今回の受賞はこのように地道な活動をご評価いただいたものと考え、大変ありがたく思っております。またこのような活動が行えるのは、大学、産業保健推進センター、多くの事業所の産業保健スタッフなど皆様の暖かいご支援の賜物だと感じています。関係各所の皆様に心より御礼申し上げますとともに、今後ともご交誼ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

※以上のお二方は昨年度の受賞でした。

掲載が遅くなり申し訳ありません。(広報事務局)

厚生労働大臣功績賞を受賞して

兵庫県医師会常任理事

鈴木 克司



このたび安全衛生に係る厚生労働大臣功績賞をいただき、身に余る光栄と存じますと同時に、この荣誉に恥じないよう今後さらなる研鑽を積んでまいりたいと思うばかりです。

昭和62年に兵庫県尼崎市で診療所を開設し住民の方相手に外来診療をやるだけでなく産業医学研鑽の機会が得られたのは日本医師会認定産業医制度ができたことだけではなく、地元の尼崎市医師会が地区労働衛生相談医モデル事業、さらには地域産業保健センター運営に取り組んでいたおかげです。勤務医時代には産業医学を学ぶ機会がなく、まして産業医の業務など実践できるはずはありませんでした。医師会内の先達として指導してくださった方々、ともに学ぶ同世代の仲間がいて尼崎市医師会・兵庫県医師会で産業保健担役員として労働行政や関連団体の方々と接しているうちに小職でもいくばくかお役に立てたことがあったか、と感慨深く捉えております。

現在、市内の複数社の嘱託産業医を引き受けるとともに、医師会役員だけでなく兵庫産業保健推進センター相談員業務にも携わっております。縁あって尼崎に来て最初に接した小規模事業場がその労働衛生水準を少しでも向上できるよう、地域産業保健事業を通じての貢献を模索する毎日です。学会からもご教示をいただきたく今後とも宜しく願いいたします。

会員の声



病院と研究所における 産業衛生

国立循環器病研究センター
先進医療・治験推進部
山本 晴子

私の勤務する国立循環器病研究センターは、平成22年4月に国立から独立行政法人化し、「民間」の組織になりました。国立の時は適用されない「労働三法」がその時から適用されるようになり、開設以来33年目にして初めて安全衛生委員会が設置され、産業医が選任されました。初代産業医は以前に産業医の実務経験があり、事務スタッフとともに職場巡視や長時間勤務の管理業務などを立ち上げられましたが半年後に転勤され、2代目産業医として私が選任されました。平成23年4月には健康管理室が設置され、産業保健師1名が新たに雇用・配属され、私はその室長を兼務することになりました。10年近く前、大学病院勤務時代に認定産業医を取得していたとはいえ、まったくのペーパー産業医でしたので右も左もわからない状態でしたが、幸い、産業保健師が企業で産業衛生活動に携わっていた方で、色々教えてもらいながら仕事を始めました。

当センターは病院と研究所、研究開発基盤センター、それに事務部門という4部門からなる施設で、常勤非常勤合わせて約1600名の職員がいますが、そのうち医師、看護師その他の医療職や研究職といった高度な専門性を有する職員が約6割を占めています。また、循環器系に特化した専門病院のため重篤な救急疾患が多く、病院は戦場のような多忙さです。健康管理室で健康相談を開始したところ、メンタルヘルス問題の多さに驚きました。患者ケア上のミスがきっかけでうつになった看護師、研究成果が思うように出せずに悩む研究者、前任地との仕事量の違いにつぶれそうになるレジデントなど、専門職ならではの悩みも多いですが、どの職場にも共通のパワハラや長時間労働も少なからず見られます。産業医（兼任）1名と保健師1名ではできることも限られますが、メンタルヘルスやパワハラをテーマとした研修会の開催、春秋に「ダイエット作戦」と称した活動量アップのためのイベントキャンペーン、また、検診後のフォローアップの徹底など、できるところから一歩ずつやっています。幸いなことに、3年連続で職員の肥満率や高血圧罹患率が改善してきており、地道な活動継続の重要性を感じながら、日々の業務に携わっているところです。



日々の業務について

パナソニック健康保険組合
産業衛生科学センター
本迫 郷宏

小生は、パナソニック健康保険組合産業衛生科学センターに入社し、早くも10年が過ぎた。日々の業務としては、パナソニックグループ内の事業所を巡回して特殊健康診断及び職場巡視・衛生診断を行っている。

入社以前は、「出張が多いからたいへんみたいだよ。」と聞いていた。旅行は嫌いではなく、一つの事業所に腰を据えて産業保健に従事することも大変勉強になるとわかってはいたが、様々な現場を経験し、見聞を広げたいと思ったので入社することにした。パナソニックグループは、家電・オーディオのイメージが強いが、作っているものも小型の電子部品から大型の製品まで多種多様であり、事業所によって有害物が多い事業所から上肢・腰部作業が多いところまで様々である。

毎週のように出張を行っているため、朝起きるとどこにいるかわからないこともしばしばあり、担当す

る事業所がかわると使用している有害物質や有害作業に違いがあり、頭の切り替えが大変なこともあるが、多くの現場を見ることが出来るので大変勉強となっている。

特殊健診で得た情報をもとに職場巡視を行い、衛生診断を行う。その結果をもとに安全衛生担当人事職をはじめ各職場責任者に向けて報告会を特殊健診診断後に行っている。

我々のミッションは、「作業者の健康を守ること」は言うまでもないが、「経営者の経営を守ること」でもある。つまり、法的に必要な措置を取るよう指導し、特に新しく変更となった法令に対する遵守の必要性についても医学的にかつ科学的に理解されるように説明することである。

日々新たな問題で悩むことも多いが、確実に改善に向けて助言し、またその為法改正・医療の進歩の理解を深めることが重要だと感じている。

少しでも従業員の皆様の健康を守り、また経営者の経営損失を防ぐために微力ながら今後も見聞を広め、勉強していきたいと考えている。

会員の声



まずは自身の健康管理

新日鐵住金株式会社 製鋼所
西本 真証

近畿地方会 会員の皆様、こんにちは。いつも近畿地方会ニュースを興味深く読ませていただいております。2011年より大阪へ移り住み、現在の会社で勤務しています。弊社は昨年10月に新日本製鐵と住友金属が合併し、現在、製造拠点は国内16拠点に展開する鉄鋼メーカーとなりました。当事業所では、主に鉄道車輪や鉄道台車の設計および製造を行っています。今回は自身の健康管理（主に体重管理）について書かせていただきます。

学生時代はテニスに明け暮れておりましたが、研修医になった途端に全く運動をしなくなりました。そして、学生の時より少し経済的にも余裕ができ、暴飲暴食を繰り返す毎日でした。案の定、数年後にはプクプクと全身に脂肪を蓄えている状態となりました。その後、産業医として働くことが決まり、さすがに危機感を覚え、改めて自身の健康を見つめ直し体重・摂取カ

ロリーのコントロールを開始。体重に関してはスマートフォンのアプリを活用し、毎日の推移を記録し、食事については昼食を大豆バーへ変更し、1日の摂取カロリーを減らしました。半年ほどで標準体重へ戻り、その後も様々な補助食品等を活用し摂取カロリーをコントロールしております。現在は、食物繊維を含んだ補助食品をお米と一緒に炊飯し、カロリーダウンを試みております。また、最近は有酸素運動と筋トレを徐々に行っております。しかしながら、なかなか継続しない自身の弱さを、周囲（主に同僚産業医）は気付いており、定期的な声かけ、時には一緒に運動、お褒めの言葉を頂戴し、何とか細々と継続しております。改めて自身が経験することで、保健指導の介入の重要性を気付かされています。

最近は、スマートフォンの普及により様々な健康管理アプリが登場し、また効果的な補助食品も販売されております。それらを上手に活用することにより、今まで以上の効果が期待できます。まずは自身が新しい事を積極的に取り入れ、それを評価し、顧客の立場を加味した上で従業員の皆様に提案できればと考えております。今後も、健康維持増進の効果的なツール等がありましたら、ご教授頂きますようお願い致します。



「管理職になって…」

(一財) 京都工場保健会
保健指導課
村田 理絵

私が勤務する京都工場保健会保健指導課は、各企業や健保組合と契約を結んで、年間健康相談、健診後の事後措置、健康教育、健康管理室業務のアウトソーシングや特定保健指導等、幅広い業務を行っています。これまで、保健師として、労働者やその上司、中小企業においては、事業主の各種相談に応じることも少なくありませんでした。

しかし、1年ほど前に私自身が管理職となり、上司の立場を経験していく中で、保健師としての相談対応が違ってきているように感じています。

某企業の衛生管理者に、残業過多者のリストを提示され「労働基準監督署より調査が入り、残業過多者に対し産業医面談実施の指導をされました。産業医面談の調整をお願いします」と言われました。管理職になる以前の私なら、言われるがままに残業過多者の産業

医面談の調整をしたかと思います。その話を伺った時、私はすかさず「残業過多者の上司（管理職）の残業はどんな状況でしょうか？残業過多者の面談をすることは、心身のチェックをする上で大切ですが、管理職自身の労働実態を把握することも大切です。実際の仕事の配慮をするのは管理職ですから、管理職面談もしていく必要があります」と話をしていました。また、某中小企業の事業主（上司を兼ねている）に、部下がメンタルになった旨の相談を受けた際には「部下がメンタルになると大変ですね。ご自身だけで何とかしようと思わないで下さいね。主治医や産業医、保健師等の客観的に関わる専門職と相談しながら対応する方がスムーズです」と、その上司の立場にたって、労いの言葉がすっと出るようになりました。

管理職になって初めて「管理職は部下以上に残業過多になりやすい」、「残業過多になると精神的不調をきたしやすいため、自分で意識してセルフケアしていく必要がある」等、実感した次第です。

今後は、これまで以上に「管理職のメンタルヘルス」をフォローしていけたらと思っています。

産業看護部会からのお知らせ

1. 平成25年度第2回定例研修会のご案内

日 時：平成26年1月25日(土) 13:00~17:00

会 場：エル・おおさか南館

テーマ：

- ①講演「産業看護のコーディネート機能活用術」仮題
産業看護の強みである連携・調整機能の技術を活かし業務を円滑に進めるための活用術を学びます

講師：五十嵐 千代先生

東京工科大学医療保健学部看護学科 準教授
日本産業衛生学会産業看護部会部会長

- ②懇談会 五十嵐部会長と一緒に今後の産業看護部会活動の方向性、あり方について意見交換を予定

2. 産業看護講座「短縮Nコース」開催のご案内

産業看護部会では平成27年度から新システムの教育制度が導入されます。それに伴い、本講座は近畿地方会において最後の開催となります。

日 時：平成26年3月14日(金)、15日(土)、
21日(金)、22日(土) 4日間

会 場：エル・おおさか本館5階 視聴覚室

内 容：地域看護学・疫学・情報管理学・保健福祉行政論について

対 象：第一種衛生管理者有資格者で、産業看護実務経験2年以上の正看護師・産業保健の基礎を学習しようとする新任保健師

定 員：70名(先着順)

テキスト代：日本産業衛生学会員 3,000円
非会員 5,000円

申し込み・最新情報は日本産業衛生学会近畿地方会産業看護部会ホームページでご確認ください。

HP:<http://jsokink.umin.jp/b-ohn.html>

技術部会からのお知らせ

平成25年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。

- 1) 技術部会の会員になろうと思われる方
- 2) 秘術部会の研究会への意見のある方
- 3) 技術部会と共同(コラボ)研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
- 4) その他 技術部会への要望

などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。

世話役 河合 俊夫

Tkawai@jisha.or.jp

2013年度第2回幹事会議事録

日 時：2013年9月6日(金) 18:00~20:00

場 所：大阪市立大学附属病院 18階第2・第3会議室

出 席：車谷・清田・圓藤・久保田・中島・宮上・伊木・伊藤・井上・大脇・岡田・河合・北原・木村・鮫島・島・鈴木・竹村・豊川・中西・廣部・藤岡・丸山・宮下・森岡・森口(順不同・敬称略)

欠 席：山田(敬称略)

議事

1. 第53回近畿産業衛生学会の進捗状況

森口幹事から順調に準備が進んでいる旨の報告があった。一般演題の締め切りを9月3日まで延長した結果29演題の申込があり、9月5日に開催した運営委員会でタイムスケジュールを作成(当日資料配布)し、座長割り振り等もほぼ終了しているとのことであった。メインテーマは「病気をもち働く人々の支援に向けて」である。1) 近畿産業衛生学会優秀演題賞の選考を行うとともに、40歳未満の発表者を対象とする若手奨励賞の選考も行うこと、2) 京都府医師会・産業保健センターに後援をお願いしていること、3) 近畿地方会HPでは、参加者数を予め把握するために事前登録の案内をしているが、地方会ニュースではその告知をしていないために当日登録も受け付けることなどの報告があった。

2. 第88回日本産業衛生学会の開催について

前回の幹事会(6/15)で、1)日程と会場、2)企画運営委員長と副委員長、3)企画運営委員会WGメンバー、4)学会運営会社(JTBコミュニケーションズ)等についてすでに承認済みであるが、後日(10/16)に予定している企画運営委員会WGの論議に反映させたいとの車谷会長の提案を受けて、学会の基本構想などについて意見交換があった。①メインテーマ、②シンポジウム、③予算、④特別研修会、⑤抄録集、⑥ランチョンセミナーなどについて活発な意見交換があった。

3. その他

①地方会ニュースの発行状況とHP更新状況

中西広報担当代表幹事から、第53回近畿産業衛生学会の一般演題申込締め切りの延長など、タイムリーに更新が行われているなど順調に進んでいる旨の報告があった。

②新選挙管理委員会の始動について

車谷会長から、前回の選挙管理委員会からの提起された課題を検討するために速やかに委員長の互選を行い、委員会活動を始めてほしいとの要望があった。

③本部理事会報告

圓藤理事(本部理事長)から、ストレスチェックに関して産業衛生学会の役割を踏まえて国に提言するために、政策法制度委員会の中にワーキンググループを設けて検討しており、その中間報告をHPに掲載しているとの報告があった。

④その他

2015年に兵庫で開催予定の第55回近畿産業衛生学会の学会長を、11月2日の次回幹事会までに兵庫の幹事を中心に決定することとなった。



平成25年度「第2回産業精神衛生研究会」のお知らせ

日時：平成25年11月29日(金) 18:30~21:00

会場：エル・おおさか(大阪府立労働会館)本館709号室

対象：産業医、精神科医、産業看護職、臨床心理士、産業カウンセラー、安全衛生管理者、人事労務担当者など

参加費：2,000円(当日会場受付でお支払いください)

主催：日本産業衛生学会近畿地方会産業精神衛生研究会

後援：関西産業健康管理研究会 大阪産業保健推進センター

テーマ：「パーソナリティ障がいへの対応、その2」

座長：廣部 一彦先生(みずほフィナンシャルグループ健康開発C関西統括産業医)

1. 基調講演

夏目 誠先生(大阪樟蔭女子大学大学院教授)

「現場活用を目指して-事例から知る対応の実際」

2. トークセッション 各30分

1) 夏目VS谷口

(産業医：谷口 智子先生)

富士通(株)関西健康推進C長)

2) 夏目VS藤吉

(産業看護職：藤吉 奈央子先生)

近畿労働金庫 保健師)

3. 質疑応答

第1回も多くの方が参加され好評であり、関心が高いテーマです。昨年度に次いで2回目を行います。講演でポイントをつかみ、産業医や産業看護職との「トークセッション(意見交換)」で理解を深め、現場で活用してくださいね。

研究会なので質問や意見交換などがしやすく、仲間もできますよ。

多くの方々の参加を期待しています。

【お申込み・お問合せ】

おおさかメンタルヘルスケア研究所

(担当：有田、小畑、吉田)

TEL：06-6251-1929 FAX：06-6251-0930

メールアドレス：sanseiei@omci-clinic.com

会員の異動 (敬称略)

<新入会員>

- 森川 英子 学校法人関西学院
- 瀧口 好三 新日鐵住金(株)広畑製鐵所
- 田淵 優奈 パナソニック(株)本社健康管理室
- 土肥 四郎 医)六三会大阪狭山介護老人保健施設「さやまの里」
- 深井 恭佑 京セラ大東事業所
- 紙名 祝子 公財)兵庫県健康財団
- 出口 博久 出口歯科クリニック
- 樋口 純子 神戸市役所行財政局職員部厚生課
- 今井 秀子 パナソニック健保産業衛生科学センター
- 上原 亮子 一財)京都工場保健会
- 岡 亜希子 一財)甲南会六甲アイランド甲南病院
- 梶岡 恵子 一財)京都工場保健会
- 濱西 誠司 関西福祉大学
- 松若 由子 一財)京都工場保健会
- 三原 さた子 サントリーホールディングス(株)
- 吉田 美恵子 (株)クボタ本社
- 一尾 直子 三菱電機(株)伊丹製作所総務部健康増進センター
- 小財 智子 大日本スクリーン製造(株)
- 辻 香里 (株)IHI相生事業所
- 東 久博 パナソニック健保産業衛生科学センター
- 山本 晴子 国立循環器病研究センター
- <再入会員>
- 入谷 智子 滋賀医科大学

編集後記

2020年夏期オリンピック・パラリンピックの東京開催が9月8日に決定しました。福島第1原発の汚染水問題が懸念材料でしたが、五輪決定で日本中が歓喜に沸き嬉しく感じました。労働衛生ではストレスチェック義務化法案の再提出が引き続き検討されているようですが、それに伴い精神科医の産業保健への関心も高くなってきています。

(丸山)

編集委員 (五十音順)
 河合俊夫 鈴木純子 竹村芳
 中西一郎 (広報事務局) 藤岡滋典
 丸山総一郎 森口次郎
 山田誠二 (編集責任)



朝の大麦β-グルカンで、健康管理。

朝食と昼食の糖質をコントロールし、食事の量をマネジメント。

2013年 9月1日 新発売!



大麦クラッカー



大麦ごはん



大麦ごはん
和風だし仕立て



大麦ポタージュ
クリーム



大麦ポタージュ
コーン

朝食から始める、ヘルスマネジメント新習慣 **大麦生活**

大塚製薬株式会社大阪支店
 Otsuka 〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40 TEL:06-6441-6532